

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：47407

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02307

研究課題名(和文) 地方都市と一般大衆の音楽事情に関する研究による西洋音楽受容史の検証

研究課題名(英文) Inspection of History of Acceptance of Western Music via Research on State of Music in Provincial Cities and among General Population

研究代表者

森 みゆき (MORI, Miyuki)

尚絅大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：00738552

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：明治期の西洋音楽受容史研究でこれまで等閑視されてきた地方都市の実態について、新聞記事を調査し分析するという方法で研究を進めた。まず、熊本で明治21年に創刊された『九州日日新聞』の西洋音楽関連記事・広告を網羅的に調査し一覧化した。地方都市の新聞には、学校や地域の行事、各種団体の催し、商店、個人についての西洋音楽に関連した記事が散見される。これらを分析、検証することにより、地方都市における一般大衆の西洋音楽受容の実態に迫ることを目的とした。特に、学校教育、師範学校や女学校の音楽教員の活動、民間楽隊の成立と普及、仏教寺院、書店、楽器店の実態について研究成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の西洋音楽受容史研究において、地方都市を対象とした研究では、学校教育や作曲家に焦点をあてた研究等、研究対象を限定した方法が主流であった。地方都市における一般大衆の西洋音楽受容の実態に迫る目的で進めた本研究の成果の一つは、熊本で明治21年に創刊された『九州日日新聞』における西洋音楽関連記事を整理し一覧化したことである。

同新聞の明治21～45年までの全紙面を網羅的に調査し、西洋音楽に関連する用語が一つでも含まれる記事と広告の要旨を一覧化した。同種の一覧は『東京日日新聞』を調査した『明治期日本人と音楽』のみである。本研究の調査一覧は音楽学のみならず他領域の研究資料としても汎用性がある。

研究成果の概要(英文)： This study was conducted by comprehensively surveying and analyzing newspaper articles on the actual conditions in provincial cities, which had previously been neglected in historical research on the acceptance of Western music during the Meiji period. Provincial city newspapers are dotted with articles on Western music in relation to schools, regional events, shops, individuals and functions held by various groups. By analyzing and inspecting these, the true state of affairs regarding acceptance of Western music in provincial cities was elucidated. In particular, research findings could be obtained on the actual state of affairs regarding aspects of school events and classes, the activities of music teachers at teachers' training schools and girls' schools, the formation and proliferation of civilian bands, book stores and musical instrument stores, Buddhist temples, etc.

研究分野：音楽学

キーワード：西洋音楽受容 明治 地方都市 学校教育 楽隊 仏教讃歌 楽器店

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

明治時代以降を対象とした西洋音楽受容史研究は近年急速に進められているが、「一般大衆」と「地方都市」という視点が看過されてきたのではないかと研究代表者は指摘する。

従来の西洋音楽受容史研究は、日本に持ち込まれた西洋音楽がどのように発信されたのか、つまり発信者である軍楽隊や教会、学校、さらにそれらに関連する演奏家や作曲家に関する研究が主流であったといえる。しかし、発信された音楽を受け手側がどのように受け止めていたのか、しかも西洋音楽に対して積極的な関心を示してこなかったごく普通の一般庶民、つまり「一般大衆」に焦点をあてた視点からの研究が進められていない。

もう一つの視点が「地方都市」である。従来の研究は、東京、大阪、京都等の大都市を対象としており、地方都市を対象とした研究に関しては、学校教育に焦点をあてた研究等、研究対象を限定したものが殆どであり、受容史の全体像を把握できる迄に至っていない。このような状況を踏まえ、地方都市における一般大衆の音楽事情の実態に迫る研究を進める必要があると考えた。

### 2. 研究の目的

明治以来の西洋音楽は、軍楽隊・教会・学校という三つの大きな入口を通して発信されたが、それら三つから発信される音楽は、各々一つのルールが一直線に大衆に届くのではなく、各要素が複雑に絡み合いながら届いたはずである。本研究では、地方都市の新聞記事や関連資料郡の整理と分析により、一般大衆の音楽事情の実態に迫り、複雑な受容の構造を読み解くことを目的とした。

### 3. 研究の方法

研究の方法は、二つの柱からなる。一つ目は、本研究の軸とも言える、明治期の『九州日日新聞』(明治21年創刊)の全紙面を網羅的に調査し、西洋音楽に関連する記事・広告を抽出し一覧化する方法である。調査の際は、記事・広告の見出しだけでなく、本文中に「風琴」「バイオリン」等の楽器名や教科書等の書籍名、演奏家・音楽教育家の名前等、西洋音楽に関連する用語が一つでも見られる記事・広告を対象とした。新聞には学校の授業や行事、地域の行事、楽器の購入や寄附、教会、戦争、軍隊、個人に関する事等、西洋音楽に関する記事・広告が散見される。規模の小さい学校の授業や行事、町の戦勝関連行事や祭り等に関する記事も少なくなく、つまりこれらは一般庶民の“日常”の記録の断片であり、同時に他の資料には記録が残されていない貴重な史料であると言える。

二つ目は、これらの記事・広告一覧を精査し、学校、音楽教員、楽隊、楽器、楽器店等のいくつかの視点から、受容の実態について検証を行い、一般大衆の耳に届いていた西洋音楽のリアルな実態を描き出すことを目指した。加えて、研究代表者が実地調査で得た、熊本県下に現存する受容史関連の資料郡と新聞資料との照合を行った。資料郡は、学校・教会・個人宅が所蔵する楽器(ピアノとオルガン、合計約50台)と関連資料、学校史や市町村史の音楽関連の記述や写真、明治7年創業の書店(楽器店併設)の帳簿等である。同時に、これらの資料の現在の所有者等からの聞き取り調査を実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 『九州日日新聞』における西洋音楽関連の記事・広告一覧

熊本において発行され、現在の『熊本日日新聞』の前身である『九州日日新聞』(明治21年創刊)の明治年間の西洋音楽関連記事・広告一覧を完成させた。一覧は、各記事・広告の要約に加え、どの地域に関する内容か、記事・広告の関連分野(演奏会、学校、軍関係、キリスト教関係等、約30分野に分類)、実際の演奏記事の場合は曲名と楽器名、について一見して判別できるように纏めた。これと同様の新聞記事一覧は、『東京日日新聞』を調査した『明治期日本人と音楽』のみであり、本研究で作成した記事・広告一覧は、地方都市における西洋音楽受容史を検証する際に貴重な資料となり得ることを確信している。

#### (2) 長崎次郎に関する研究

『九州日日新聞』の調査で、長崎次郎(1843-1913)の行ってきた業績が明らかになった。現在も熊本市中央区新町と上通町にある長崎次郎書店と長崎書店は、それぞれ明治7年と21年に長崎次郎によって創設されたが、書籍のみならず学校教育用品一般(理科、体育用品他)、楽器等を扱い、出版業も行っていった。書店としては、熊本県下の教科書取次店でもあり、第五高等学校の言わば専属書店としても機能していた。出版業では、県や市の地図、教科書、楽譜、一般書等を出版しており、楽器店としては、山葉や十字屋、三木楽器等の中央の楽器店の九州を代表する取次店でもあった。多角的に営業を行っていた長崎は、熊本の教育と文化を支えてきた人物の一人と位置付けることができるだろうが、これまでに長崎に関する研究はない。本研究の成果は、レクチャーコンサート「長崎次郎と熊本の音楽文化」(2019年12月15日)で発表を行い、プログラム冊子に概要をまとめた。

また、長崎次郎書店には、明治40年代から昭和20年代までの帳簿、着荷記録、教科書受注記録等が現存する。これらについては、本研究でデジタル資料として保存した。今後データベース化を行う予定である。

### ( 3 ) 楽隊の成立と普及に関する研究

地方都市の新聞記事には、東京等の大都市の新聞には見られない、個人や規模の小さな団体を取り上げた記事が散見される。新聞記事・広告を分析することにより、明治 20 年代初頭から地方都市でも結成され始めた民間楽隊について、成立の背景、過程、楽隊結成の際の経済的援助の実態等が明らかになった。県内における成立に関しては、まず、県を代表する楽隊(熊本音楽隊)が成立し、続いて近隣の市町村に同様の楽隊(玉名音楽隊、長洲音楽隊他)が結成された。また、同時期に、尋常小学校から高等学校、そして専門学校等に至るまで、様々な種類の学校に楽隊が誕生した。さらに、青年団、商店組合、芸妓団体、孤児院等に、各々の目的で楽隊が成立した。芸妓楽隊については、従来吉原の楽隊については言及されてきたが、本研究では同種の楽隊が全国各地に存在した可能性を指摘した。熊本においても芸妓楽隊の具体的な設立準備に関する記事が確認された。また、商店楽隊については、従来三越の楽隊が嚆矢的存在とされてきたが、明治 30 年代後半に既に商店が楽隊を結成していたことが判明した。一軒の商店で楽隊を設立した例、複数の商店により結成された例、商店組合等により結成された例が確認できた。

### ( 4 ) 熊本県下に現存する明治から昭和初期に製造された楽器調査(ピアノ・オルガン)

研究代表者のこれまでの研究で、熊本県下に現存するピアノ 27 台、オルガン 27 台を調査発表した。楽器調査に関しては、実物調査と同時に、現在の所有者(個人、学校・教会等の団体責任者他)から、楽器にまつわる話の聞き取り調査(楽器購入の経緯、使用されていた状況他)を実施した。

### ( 5 ) 仏教寺院のオルガン所蔵調査

上記( 4 )の調査の過程で、大正から昭和初期に仏教讃歌を歌うために購入されたオルガンが複数の浄土真宗系寺院に現存することが判明し、熊本県下の同宗派寺院 470 寺を対象にオルガン所蔵についてのアンケート(郵送による)を実施した。その結果、19 寺に現存することが分かり、現在、実物調査と聞き取り調査を実施中である。なお、この 19 寺の所蔵楽器は、上記( 4 )のオルガンの台数には含めていない。

全国的なオルガン所蔵調査研究としては、佐藤泰平による調査(1994~1999)があるが、主に学校、教会、個人を対象としており、仏教寺院を調査対象としていない。本研究での成果は、全国的な同宗派寺院にオルガンが現存する可能性が高いことを指摘できる。

### ( 6 ) 木村ピアノに関する研究

熊本県山鹿市立博物館に通称「木村ピアノ」「山鹿ピアノ」と呼ばれるピアノが所蔵されている。明治中期から昭和初期にかけて、全国的に、ピアノやオルガン製作をしていた個人や会社についての新聞記事・広告等が確認できるが、それらの楽器のうち、現在でも実物の楽器が現存している例は稀有なケースである。木村ピアノは、木村政雄・末雄兄弟によって、大正末期から昭和初期にかけて制作されたピアノであり、平成 21 年に旧所有者から同博物館に寄贈された。本研究の着手以前に、既に研究代表者は木村ピアノに関する調査を実施していたが、本研究では、製作者の木村政雄氏のご子息と木村ピアノの修復を行った調律師に聞き取り調査を実施した。これについては、今後発表する予定である。

### ( 7 ) 師範学校や女学校の音楽教員の活動に関する研究

地方都市の新聞記事には、学校での音楽活動(授業、学校行事、地域行事との連携、教員の個人の活動等)に関する記事が散見される。これらの記事から、特に明治 30 年代以降、師範学校や女学校に勤務した音楽教員の活動の実態が浮かび上がってきた。彼らの活動は多岐にわたっており、尋常小学校教員等を対象とした講習会(音楽)の講師、演奏会出演、作詞・作曲、教科書・雑誌等の執筆、私設の音楽教育団体設立と活動等を精力的に行っていた。さらに、同時期に県下の師範学校や女学校に勤務した音楽教員等同士が協力して活動を行っていた点も特筆すべき点である。主要な人物として、高濱孝一、入江好治郎、犬童球溪(本名は犬童信蔵)、成田蔵巳、長橋熊次郎を挙げることができる。は、県・市町村からの委嘱によるものと自主的な活動とがある。については、本研究の調査により明らかになった活動である。入江・犬童・成田等が中心となり「熊本音楽研究会」を発足させ、県下の尋常小学校教員等への講習会を毎週実施(熊本市碩台小学校にて)する定期的活動に加え、高等小学校にピアノを寄附する目的で一般市民を対象としたコンサートを複数回実施する等、県下の音楽教育、地域の文化向上に貢献していたことが判明した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森みゆき	4. 巻 50
2. 論文標題 明治期の熊本新聞における西洋音楽関連記事調査 - 九州日日新聞 明治35～40年 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 尚綱大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 117-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森みゆき	4. 巻 51
2. 論文標題 明治期の熊本新聞における西洋音楽関連記事調査 - 九州日日新聞 明治41～45年 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 尚綱大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 93-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森みゆき・山崎浩隆	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 熊本県下に現存する古いピアノ・オルガン調査3 - 明治・大正・昭和初期 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成音楽大学紀要	6. 最初と最後の頁 19-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森みゆき	4. 巻 52
2. 論文標題 地方都市における民間楽隊の成立と普及に関する検証 - 明治期の熊本 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 尚綱大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 89-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

『長崎次郎と熊本の音楽文化 - 長崎次郎書店と長崎書店の創設者 - 』（レクチャーコンサートの主催・企画構成）主催：尚絅大学短期大学部幼児教育学科森研究室、出演：森みゆき・長崎圭作・長崎健一・高森郁子・長崎あや子・北本智子、2019年12月15日、長崎次郎喫茶室（長崎次郎書店2階）、熊本市中央区  
森みゆき『長崎次郎について』（レクチャー）、レクチャーコンサート「長崎次郎と熊本の音楽文化 - 長崎次郎書店と長崎書店の創設者 - 」、2019年12月15日、長崎次郎喫茶室（長崎次郎書店2階）、熊本市中央区  
森みゆき『長崎次郎と熊本の音楽文化 - 長崎次郎書店と長崎書店の創設者 - 』（プログラム冊子）、12頁、尚絅大学短期大学部幼児教育学科森研究室、2019年

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----